

漢文句法「否定」確認テスト（不・無・非・莫） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

解答・解説

問1 読み…「ず（慮らずんば）。意味…「～しない」。「弗」は「不」とほぼ同じ意味・働きで、動詞・形容詞を打ち消して「～ず」と読む否定語。「不」の異体・強調的な用法と考えてよい。

問2 「なし（無し）。「天に二つの日は無し」と読み、存在しないことを表す。

問3 読み…「なかれ（施すこと勿かれ）。用法…禁止（「～してはならない」と相手の行為を禁じる）。

問4 イ（なかれ）。「勿」は「なかれ」と読み、「改むるに憚ること勿かれ（改めることをためらってはならない）」と禁止を表す。

問5 読み…「なかれ（愁ふこと莫かれ）。⑤の文頭の「莫」は「なかれ」と読み、相手の行為を差し止める禁止を表す。したがって、存在の否定ではなく禁止である。

問6 「非」は判断（断定）を打ち消す。⑥「我は生まれながらにして之を知る者に非ず」は、「私は（生まれつき物事を知っている者）ではない」と、「Aは～である」という判断を丸ごと否定している。動作や状態を打ち消す「不」とは異なる。

問7 「（これまで）喜ばないことはなかった」＝「いつも必ず喜んだ」という意味。否定が二つ重なり（二重否定）、結局は強い肯定を表す。

問8 再読文字とは、一つの字を二度読む字のこと。「未」はまず副詞として「いまダ」と読み、返って動詞を読んだあと、もう一度「ず（打ち消し）」と読む。⑧では「未だ生を知らず」と、「未」を「いまダ」と「ず」の二度に分けて読み、「まだ生（生きること）を知らない」の意となる。

問9 まだ生（生きるということ）さえもわかっていない。どうして死（死ぬということ）がわかろうか、いや、わかるはずがない。

問10 ⑨「あらためず」（不改＝改めず）／⑩「しかず」（不如＝如かず）。いずれも「不」は下の動詞を打ち消して「～ず」と読む基本の否定。

問11 「弗（不）」は動作・状態（「慮る」という動詞）を打ち消して「～しない」を表す。これに対し「無」は物事の存在そのものを打ち消して「（…が）無い・存在しない」を表す。打ち消す対象が、前者は動作、後者は存在である点が異なる。

問12 禁止。

問13 ③。（②の「無」は存在の否定、①の「莫」は「人無きこと莫し」で二重否定の存在の否定であり、禁止を表すのは③の「勿」のみ。なお④の「勿」、⑤の「莫」も禁止だが、本問は②①③の三つから選ぶため答えは③。）

問14 ⑫「あらず（我に非ず）」／⑥「あらず（知る者に非ず）」。「非」は「～にあらず」と読む。

問15 ⑦「いまだ（未だ嘗て説ばず…）」／⑧「いまだ（未だ生を知らず）」。「未」は「いまダ～ず」と読む。

問16 (1) 過ちて改めず。 (2) 天に二つの日は無し。 (3) 未だ生を知らず。

問17 (1) 自分が (人から) されたくないことは、人に対してしてはならない。 (2) あなたは私ではない。 (3) まだ生 (生きるということ) を知らない。

問18 ⑩の「莫」は「人無きこと莫し」で、「(国に) 人材がないということはない=必ず人材はいる」と、存在の否定を重ねた二重否定 (強い肯定) として使われている。一方⑤の「莫」は「愁ふること莫かれ」で、「思い悩むな」と相手の行為を禁じる禁止の用法である。同じ「莫」でも、前者は存在の否定、後者は禁止という違いがある。

問19 非。「我が物 (である)」という判断・断定を打ち消すのが「非 (～にあらず)」だから。「不」は動作、「無」は存在、「未」は「まだ～していない」を打ち消すため、「これは私の物ではない」という断定の否定にはふさわしくない。

問20 ・「不 (弗)」…動作・状態を打ち消す否定 (～しない)。 ・「無」 (存在の否定) …物事存在を打ち消す否定 (～が無い)。 ・「非」…判断・断定を打ち消す否定 (～ではない)。 ・「未」…ある時点でまだ実現していないことを表す否定 (まだ～していない)。

問21 (例) 「勿かれ・莫かれ」は、相手の行為を「するな・してはならない」と差し止め、戒めや忠告の気持ちを伝える表現になる。例えば③「人に施すこと勿かれ」は、相手にその行為を禁じ、戒める意を表している。
(約四十字)